文化財コラム Vol.12

鳥羽のきらり✨歴史遺産語り

鳥羽市の豊かな歴史遺産と、文化財の調査や保全を担当する文化財専門員の活動を紹介します。

教育委員会生涯学習課 TEL 25-1268



古刹（こさつ）丸興山庫蔵寺（がんこうざんこぞうじ）を知っていますか？

河内町にある彦瀧大明神の脇を通り、近畿自然遊歩道となっている険しい山道を登っていくと、丸興山庫蔵寺という真言系のお寺があります。

庫蔵寺は天長3年（826年）に弘法大師が朝熊山の金剛証寺の奥の院として虚空蔵菩薩を安置したことが始まりとされています。このお寺は戦国時代には九鬼氏の庇護を受け、鳥羽城の築城の際も安全祈願を行ったといいます。

本堂は永禄4年（1561年）に建立され、天井には牡丹などの絵画、欄間には仏画が描かれており、見ごたえがあります。本堂と鎮守堂は国の重要文化財に指定されているほか、境内には天然記念物のコツブガヤの大樹など、鳥羽で最も多くの文化財をもつお寺です。

今年は開基1200年にあたり、記念行事が行われます。普段は公開されていないご本尊の秘仏「虚空蔵菩薩像」も特別に公開されます（有料）。像の高さは16センチほどの小像ですが、本堂の建立時期と同様の室町時代の作と考えられる美しい仏像です。11月29日㈰に記念祭が行われ、12月6日㈰まで開帳が行われます。めったに観ることのできない機会ですので、行ったことがあるかたもないかたも足を運んでみてはいかがでしょうか。

記念行事や問い合わせ先はお寺のホームページを確認してください。

庫蔵寺
ホームページ


本堂の内部の天井絵と欄間の仏画


庫蔵寺の本堂

鳥羽市の文化財

11月 旬の鳥羽ざかな vol.23

鳥羽市が誇る四季折々の「鳥羽ざかな」を漁協さんがご紹介！

観光商工課観光係 TEL 25-1157
農林水産課水産係 TEL 25-1167

グレ（メジナ）



鳥羽の海を見ると、磯の荒さと潮の強さを感じる場所があります。そんな場所で昔から獲られてきた魚が「グレ（メジナ）」です。釣り人にはなじみ深い魚ですが、食べる魚としては少し地味に扱われることもあります。けれど本当は、グレほど鳥羽の海らしさがはっきり出る魚はありません。

速い潮に揉まれて育ったグレは、身が締まり、噛むほどに旨みがにじみ出てきます。白身でありながら、決して味が薄いわけではない。むしろ、力強さを感じる味が特徴です。新しものは刺身、日にちが経てば煮付けに。特別な料理をしなくても鳥羽の食卓を支えてきました。特に寒い時期のグレは脂乗りがよく、刺身ではもっちりとした食感と広がる旨みを楽しめます。一方で、夏場は敬遠されることもありますが、血抜きや下処理、保存を丁寧に行えば、扱い方次第で季節を問わずおいしくいただける魚です。

グレは、獲るにも食べるにも知恵と経験が求められる魚です。漁師の腕、魚屋の目利き、家庭の知恵があってこそ、おいしさが引き出されます。「当たり前」に獲り、「当たり前」に食べていることは、鳥羽の海と共に生きてきた人々の証でもあります。その価値を改めて見つめ直し、釣り人の楽しみとして、店先に並ぶ魚として、家庭の食卓を支える一匹として、これからも大切にしていきたいものです。